

伊能忠敬



* 毛利家文庫 58絵図241「御両国測量絵図（伊能大図）六番」（部分）

解説

伊能忠敬（1745～1818）は江戸時代中期の地理学者・測量家です。隠居後の1800（寛政12）年、56歳の時から日本全国の測量を開始しましたが、その測量技術が極めて高度なものであったことから、徐々に幕府からの支援が増強され、国家的事業に育ちました。こうして作られたのが「大日本沿海輿地（よち）全図」であり（完成は忠敬没後の1821〔文政4〕年）、たいへん精度の高い日本地図として評価されています。

当館蔵の「御両国測量絵図（伊能大図）」は、「大日本沿海輿地全図」の防長両国分の大図（縮尺1/36,000）の写しで、写真は大図7枚のうち、大島郡と熊毛郡沿岸部を描いたものの一部です。幕府に献上された原本は明治初期の皇居炎上で失われたので、伊能忠敬の偉業をしのぶ貴重な資料です。

なお、1828（文政11）年、この「大日本沿海輿地全図」をシーボルトが国外に持ち出そうとしたことが発覚し、関係した日本の蘭学者高橋景保（忠敬が師事した高橋至時の息子）らが処罰されました（シーボルト事件）。

* 当館の伊能大図はいずれも当館のウェブサイトから高画質でダウンロードできます。トップページ（<http://ymonjo.ysn21.jp/>）から「高画質画像ダウンロード」に進んでください。なお、印刷物に掲載したり複製物を作るなどの場合には、事前に当館への承認申請を行う必要があります。